ウルリム
響
生野

特定非営利活動法人
聖公会生野センター機関誌
第72号
2020年11月25日発行
題字：康秀峰

URL http://www.nskk.org/province/ikuno　E-mail:nskkikuno@gmail.com　聖公会生野センター　検索

わたしたちの希望であるキリスト・イエス

（テモテへの手紙１　１：１）

主教　アンデレ　磯　晴久

新型コロナウイルス禍、先が見えない不安な状況が続いている中、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも聖公会生野センターのことを憶え、お祈りとご理解、ご支援を賜っておりますことを、心より感謝申し上げます。

さて、2020年10月5日朝日新聞の朝刊のコラム「折々のことば」で、鷲田清一さんがドイツ文学者であった池内紀（おさむ）さんのことばを紹介しておられて、大変心に残りました。池内さんがある講演会の最後のところで語られた「これほど豊かになって、これほどしあわせにならなかった国はめずらしい。」という日本に対する思いでありました。豊かになったのに、しあわせでないめずらしい国日本。どうしてなのか、池内さんはずっと問いかけながら歩んで来られたということです。人々が豊かさを求め「儲ける」ことを最優先することで、逆に失ってしまった大切なもの、喪失したもの、忘却したものとは何か。

考えるヒントを、聖公会生野センター総主事呉光現さんがくださいました。この度呉さんは、大韓民国から椿章と言う素晴らしい勲章を頂くことになりました。在日韓国・朝鮮人として、地域の人々への奉仕・働きや済州四三事件への真摯な取り組みなどが評価されての受章です。（詳細は別の欄で。）呉主事よりその報告の連絡を頂いた時「自分がこのような章を頂いていいのか、ふさわしいかわからないが、在日同胞、特に青年たちの「希望」になればと思い、お受けすることにしました。」と言われ、私はとても心打たれたのです。「在日同胞の青年たちの希望になれば」という言葉にぐっときたわけです。

日本社会はとても豊かになりました。それは諸先輩方の努力の賜物で、感謝すべきことです。しかしその一方で、失ったもの、喪失したもの、忘却したものがあるとすると、それは何か。「希望」ではないかと、呉主事の言葉から気づかされたわけです。「希望」を抱かせない日本社会の中で、生野の地で、聖公会生野センターは、「生きる希望」を分かち合おうと歩んで来ました。在日韓国・朝鮮人一世のお年寄りと精神障碍者の皆さんはじめ、地域の人々、そして教会の人々と共に歩んで来ました。そして、当事者の皆さんはじめ、関係する人々から、わたしたちの側が希望を頂くと言う相互性の大切さを学んで歩んで来ました。

わたしたちは、声高に主張することはありませんが、その活動の底流に、目には見えないわたしたちの希望であるキリスト・イエスの心が流れています。イエスは言われました。「『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の戒めである。第二もまた、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイ22：37・38）神からの愛を受けて神を愛し、隣人愛に生きること、そこにわたしたちの希望の源泉があります。

聖公会生野センターは、今後も「生きる希望」を分かち合う地域活動を続けて参ります。皆様の更なるお祈りと応援、そして活動への参画をよろしくお願いします。

（いそ・はるひさ　日本聖公会大阪教区主教、聖公会生野センター　理事長）

聖公会生野センターとの出会い

セシリア　松原　恵美子

聖ガブリエル教会がプレハブの時代、生野センターの名前もまだ「仮称ガブリエル地域活動センター」だったときのことです。生野区にあるプール学院に就職した年に、ある方から「活動に参加しませんか」と誘われました。振り返ると、生野センターとの出会いはそこまでさかのぼります。その後、新しくガブリエル教会の礼拝堂、こひつじ乳児園、生野センターの建物ができ、'90年代に生野労働聖書セミナーにスタッフとして参加したり、韓国から研修にきた神学生や大学生とのプログラムにも参加したりと、ずいぶん勉強をさせていただく機会を得ました。あの経験がなければ、韓国語を習ったり、学校の人権ＨＲで生野フィールドワークを企画することもなかったかもしれません。最近は、生野センターの活動に参加する機会は減りましたが、私にとってはなくてはならない出会いだったと思います。「ウルリム」の創刊当初、名前を決めるところからの編集委員もさせていただきました。今のところ、学びっぱなしの私ですが、いつか恩返しができたらと思っています。

（まつばら・えみこ　堺聖テモテ教会信徒）

僕と生野センターとの出会い

ペテロ　岡田　安朝

それはまだ聖ガブリエル教会と併設されていたころにさかのぼります。まだ僕が教会に復帰したばかりで、初めて教会委員に選出された時期の事でした。委員の中で生野センター後援会のアンデレ教会の代表に選出されたわけですが、全く右も左もわからず後援会の中でうろうろしている間に多くの先輩諸氏に指導され教育されました。

先輩諸氏も神のもとに召された方も多く、歳を取ったことを実感させられる今日この頃です。

当時の自分には、生野センターのことは全く分からず、また教えを受けるのですが「解らない」という答えしか出ませんでした。今は？と聞かれるとある程度の話を出来るようにはなりましたが、今でも疑問点も不明です。ただ在日１世２世のおばぁたちの食事会や、障碍者（個性）の絵画教室の運営など地域に対しての宣教をしている場として、多くの職員や総主事である呉さんの働きには頭が下がるばかりです。

私のお願いとしては、出来る限りの大阪教区の信徒が生野センターを感じてほしいばかりです。知ることと違い、生野センターの存在意義を体で感じることは新しい世界を感じることでもあります。ですから、ご自身で神の指し示す方向を感じることです。

ウルリムは当初のころ、僕にとって言葉が難しく専門的な言葉も多く、一般の人にはシンドイ読み物でした。いろいろな提案をさせていただいて、やさしい写真も含まれるものに変わってきました。

「お前ごときが寄稿することはおこがましいぞ！」と先輩諸氏にお叱りを受けることだと思います。僕にはウルリムはまだ難しい読み物です。多くの方も同じように感じられると思います。しかし理解しようと努力することは素晴らしいと思います。そして出来れば生野センターを肌で感じてください。僕は地域のボランティア（町会役員・民生委員・保護司）に参加するきっかけになりました。生野センターの呉さんをはじめスタッフに影響を受けたことは否めません。彼らの働きを多くの方を肌で感じて頂きたいばかりです。

（おかだ・やすとも　大阪聖アンデレ教会信徒）

クリスマス献金のお願い

主のみ名を賛美します。

当センターは住民の４人に一人が在日韓国・朝鮮人である大阪生野地域を中心として、日韓教会の交流、すべての人が大切される社会の実現をめざし福祉事業として在日高齢者や障がい者の居場所、障がい者の美術・音楽などの文化事業を行っています。また生野地域では行政や地域諸団体と共に「人に優しい街つくり」に取り組んでいます。

聖公会では大阪教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会、管区日韓協働委員会の働きを担っています。

これからも地域の中でのネットワークを大切にしながら、聖公会生野センターの働きが多くの人に支えられていることを感謝してやみません。

今後とも皆様のお祈りとご支援をお願いいたします。

２０２０年　降臨節

理事長　磯晴久／総主事　呉光現

送金方法
【ゆうちょ銀行（郵便振替）】
口座番号　00910-1-321780／　口座名　特定非営利活動法人聖公会生野センター
※郵貯銀行以外からご送金の場合
〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099）　当座　0321780
口座名　特定非営利活動法人聖公会生野センター
＊自由献金（ご寄付）は随時受け付けております＊

聖公会生野センターを通じての楽しみ

アブラハム　春名　英夫

もう何年前になるのか記憶も曖昧ですが、聖公会生野センター大阪教区後援会の教会代表の委員になってから、聖公会生野センターとの付き合いが始まりました。

後援会の会議では、諸報告の後、呉総主事による韓国の歴史やヘイトスピーチ等差別事象、済州四三事件等についての勉強会で韓国についての知識を得させていただいています。

私の楽しみは、生野センターが隔月に開催している地域寄席であります「こみち寄席」です。今年は、コロナ禍もあり、感染予防で最近は出席していませんが、こじんまりした広さで演者である落語家さんと身近に接し、マンツーマンで聞いている感じがします。また、講談も聞けるのが嬉しいです。地域の方々と一緒に大いに笑わせてもらっています。

それと、生野センターがたまに実施しています野外研修です。鶴橋市場や御幸森神社、コリアタウンを巡るコースですが、食いしん坊の私は、研修会の後で行われる懇親会で韓国の食文化が手頃な値段で味合えるのが楽しみです。不謹慎ですが、それが楽しみで研修会に参加しているみたいなもんです。

でも、一番の楽しみは、会議で他の教会の信徒の皆さんと会えることです。井の中の蛙の私はいろんな刺激を受けて励みになります。今後とも交流を深めたいものです。

（はるな・ひでお　恵我之荘聖マタイ教会信徒）

歴史を生きる猪飼野の在日二世として、ークリスチャンとして
～呉光現氏への韓国国民勲章「冬栢(つばき)章」叙勲にあたって

司祭　ステパノ　柳　時京

今年の第14回目韓国人の日(10月5日)を迎え、韓国政府は聖公会生野センターの総主事である呉光現氏を叙勲者に選んだと発表した。叙勲の格ではむくげ章（木槿、1人）、ぼたん章（牡丹、3人）に次ぐつばき章（冬栢）の6人の一人として叙勲された。これに次ぐ国務総理表彰（20人）には、アメリカ聖公会ロスアンゼルス聖ジェイムズ教会の牧師で、ロスの韓国人ホームレスの支援活動に尽力している金東鎮(キム・ドンジン)司祭も選ばれている。

今回の勲章は、先ず在日として自分の歴史に真摯に向き合い、日本社会の変化を求めながら活動を繰り広げてきた呉光現氏への叙勲である。それと同時に、張本栄司祭により設立された聖ガブリエル教会と生野センターを通して日本聖公会と韓国聖公会とで積み重ねてきた協働の働きへの評価でもある。またその働きを支えてきている大阪教区の宣教への一定の評価とも言える。わたしは、ここで呉さんの若き頃の自伝から一部を引用して紹介したい。

「わたしが通っていた生野区の小学校も中学校も、児童・生徒の約半数が在日でしたが、出席簿ではまず日本人が男女あいうえお順で、そのあと、わざわざ一行空けて、在日の名前が並んでいました。～

～高校生のとき、本屋でたまたま金石範（キム・ソクボム）著『鴉の死』（新興書房、1967年）を見つけましたが、当時のわたしは在日朝鮮人作家がいることも知らず、朝鮮語の作品の翻訳だと思っていました。でも高校生になり、いろいろ感受性に影響を与える出来事に出会いながら育っている最中だったので、「在日朝鮮人の文学があるんだ」と興味を持ち、『鴉の死』を読んでみました。すると済州四・三事件をテーマにした小説で、両親が済州島出身ということも知っていたので、アボジに「さいしゅうとうよんさんじけんて何？」と聞きました。するとアボジは突然「誰に教えてもらった！」と烈火の如く怒り、わたしの頭をぶん殴ったんです。」

呉さんは、この時の新たな気づきから、人権と平和、闇に包まれていた歴史の真相究明など、新たな道を歩むことになりました。私は、その誠実な歩みへの励ましとして、今回の叙勲の意味がると捉えています。

（ゆ・しぎょん　生野センター理事、川口基督教会牧師）

＊この記事は柳司祭に執筆頂いた原稿の抜粋です。全文は生野センターホームページに掲載予定です。

「冬栢章」について

「国民勲章冬栢章」を受章する呉光現・総主事は、△在日同胞における権利の保護及び向上に寄与し、△民族教育を通じて青少年に対する民族アイデンティティの養成に貢献しました。また、△済州４.３関連活動を通じて同胞社会の団結と歴史意識を高めるよう努力してきました。

（駐大阪韓国総領事館ホームページより抜粋）

発行所：聖公会生野センター
〒544-0002
大阪市生野区小路3丁目11番19号
発行人：磯　晴久
編集人：呉　光現
TEL 06-6754-4356
FAX 06-6224-7856
E-Mail nskkikuno@gmail.com
http://www.nskk.org/province/ikuno